

平成 9 年度試験研究成果

区 分	指 導	題 名	りんどう「ポラーノホワイト」の生育不良株の発生防止対策		
〔要約〕生育不良株は、前年生育枝に着生した越冬芽が萌芽し、立茎数が増加することで発生する。また、前年生育枝は灰色かび病の発生源となるため、生育を阻害する場合もある。生育の安定化を図るには、萌芽前に前年生育枝を完全処理するとともに株仕立てを実施することが効果的である。					
キーワード	生育不良株	灰色かび病	株仕立て	園芸畑作部	花き研究室

1．背景とねらい

りんどう「ポラーノホワイト」は、従来的一本立品種とは異なったスプレータイプの品種として新たな需要の喚起が期待されており、安代町、衣川村など大きな産地を中心に作付けが増加している。しかし、草丈があまり伸びずに密生する生育不良株の発生が見られることや萌芽数が多いという品種特性による通気の悪化が原因で灰色かび病が発生しやすいことなどが問題点として指摘されている。そこで、現地の状況を調査・分析し、安定生産のための対策について検討を行った。

2．技術の内容

- (1) 「ポラーノホワイト」は若茎が寒さに特に強く、晩秋まで生育する特性がある。このため、茎を完全に除去しないと基部に近い側芽が越冬芽となり、翌年の萌芽数が増加することにより生育不良株が発生する。また、クラウン部に充実した越冬芽が形成されない株が影響を受けやすい。
- (2) 前年生育枝の残茎が灰色かび病の発生源となる。更に過繁茂による通気の悪化により正常茎にも感染する。(表1、表2)
- (3) 前年生育枝の残茎は前年秋か早春に除去し、焼却処分する。(表2)
- (4) 株仕立てを5月上旬頃に実施する。クラウン部から発生している強い茎を10本前後残し、それ以外の茎はすべて株元から除去する。

3．指導上の留意事項

- (1) 株仕立ての際に、強い茎を引き抜くことがあるので丁寧に行う。
- (2) 灰色かび病対策として薬剤散布を励行する。その際、株の中央部に薬剤が入るようにする。
- (3) 過湿圃場は灰色かび病の発生を助長するので、排水対策を行う。

4．技術の適応地帯

県下全域

5．当該事項に係る試験研究課題

- 3-1-(1)-ウ-(ア) りんどうの高品質安定生産技術の開発
 - b りんどうの栄養系品種の高品質安定生産技術及び不時出荷技術の開発

6．参考文献・資料

なし

表1 株齡、残茎処理、株仕立てによる生育、生育不良株、灰色かび病発生状況（衣川村）

（6月3日 調査）

区	株齡	残茎処理 ¹⁾		株仕立て		調査株	草高 (cm)	立茎数 (本)	仕立て本数 (本)	生育不良株 発生割合(%) ²⁾	枯茎数 ³⁾ (本)
		有	無	有	無						
2年	有	有	有	5下	正常株	30.1	-	10.2	21.4	0	
						生育不良株	-	-	-	(多)	
2年	無	無	-	-	正常株	43.8	16.4	-	36.0	1.8	
					生育不良株	30.7	24.8	-	1.2		
2年	有	無	-	-	正常株	39.2	9.6	(9.6)	欠測	0	
					生育不良株	21.9	11.3	(11.3)	0.8		

注) 1) 前年生育枝の除去。実施時期は5月下旬

2) 全株に対する発生株率

3) 灰色かび病による枯茎

〔摘要〕・5月下旬の残茎処理では生育不良株の発生を抑えることができない。

表2 株齡、残茎処理、株仕立てによる生育、灰色かび病発生状況（安代町）

（6月3日 調査）

区	株齡	残茎処理 ¹⁾		株仕立て		草高 (cm)	立茎数 (本)	仕立て本数 (本)	灰色かび病 発生割合(%)	灰色かび病 被害程度 ²⁾
		有	無	有	無					
2年	無	有	有	5上	30.1	47.1	7.8	95	1.8	
2年	無	有	有	5上	25.8	47.4	12.0	95	2.0	
3年	無	無	無	-	32.0	31.1	-	65	0.9	
3年	有	有	有	5上	33.8	27.4	13.3	0	0	

注) 1) 残茎処理； は前年度秋に処理

2) 指数評価；0～3（無、少、中、甚）

〔摘要〕・農家の3年株は前年度に、残茎処理をしていたため灰色かび病の発生が見られなかった。